

地域の人口減少

地元密着の森林整備活動を推進

中濃管内には、岐阜県立森林文化アカデミーの卒業生が設立した特定非営利活動法人「柚の杜学舎」（以下「柚の杜学舎」）があります。柚の杜学舎のメンバーは、それぞれ林業以外の経歴を持っておられ大変興味深いところですが、今回は代表理事の鈴木章氏を紹介します。

●経歴

鈴木氏は、中学校・高等学校の教諭を18年間務められましたが、「日本の山の現状はこのままでいいのか？」という疑問を解決するため、一転し林業の道を目指し、1年間炭焼き、素材生産に携わり、その後、岐阜県立森林文化アカデミー（以下「アカデミー」）に入学されました。

さらに、スギ・ヒノキなどの人工林で間伐等の保育が行き届いていない現状を



「柚の杜学舎」の仲間たち（中央手前：鈴木氏）
特定非営利活動法人「柚の杜学舎」
鈴木章氏

目の当たりにし、「このままでは森林の持つさまざまな機能が失われてしまう。森林の窮状を救いたい。」との思いから、多くの賛同者とアカデミーの先生方の協力のもと、心強い仲間が集まり平成14年11月1日にNPO法人柚の杜学舎を設立されました。

●未整備森林解消に向けて

現在は、柚の杜学舎設立のきっかけともなった森林整備を促進するため、中濃森林組合と協力し座談会を開催しています。座談会後は、森林所有者を戸別訪問し、積極的に施業の働きかけをされています。

朝早くから間伐等を実施する鈴木氏たちの真面目な仕事ぶりは次第に地元の方々にも認められて、活動に対する理解の深まりとともに、座談会の出席者も



中濃森林組合と協力して座談会を開催しています

多くなり、美濃市の間伐を強力に押し進めています。

●森林整備ボランティアの育成にむけて

鈴木氏は、アカデミー在学中、柚の杜学舎の前身となる森林ボランティアグループ「やまいきフォレストーズ」を立ち上げた経験を持ち、また現在は、美濃市が主催している森林整備ボランティアリーダー研修「みの森林塾」の企画・講師を務めています。当塾では、平成17年度から今までに延べ60名の方が受講されました。

森林整備や景観整備を進めるためには、森林ボランティアの活躍が期待されており、森林整備の楽しみや意義を少しでも多くの一般の方々に感じてもらう、一緒に森林整備に取り組みたいと意欲を燃やしています。



一般の方々に森林整備の楽しみや意義を伝える活動を続けています

●地域の森林管理体制について

近年、県内各地域で森林管理体制をどのように構築していくかが課題となっています。美濃市においても、美濃市森林管理委員会（仮称）を立ち上げるため、検討会で話し合いが進められています。

鈴木氏は、この検討会のメンバーとして、森林整備を実践している経験と森林景観整備調査などで得た情報をもとに、幅広い視点から提案や意見を出されています。

●今後の活動について

今回の取材を通じて鈴木氏からは、「柚の杜学舎は「NPO法人」という言葉が示すように、特定非営利活動であり、社会使命を持っていきます。それは、放置人工林を全てなくし、健全な人工林にするという「放置人工林対策」です。また一般の人にも森林に目を向けてもらい、一緒に、楽しく、やりがいを持って森林整備ボランティアなどに取り組んでいただきたいですね。森林、環境、地域が良くなるように今後も活動を続けていきます。本日は、大きな木を伐るのが好きなんですけどね！」とお話が聞けました。

鈴木氏をはじめ柚の杜学舎の皆さんは、間伐事業、修景整備事業を始めとする森林整備事業、森林景観整備調査などの調査事業、インタースタッフの受け入れ、森林ボランティアリーダー研修の企画と講師、自然体験学習の講師など多岐にわたり活躍されています。今後も幅広い活躍を期待しております。

【中濃農林事務所 河方勇一郎】